

[004]決断科学表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1913970>

出版情報：決断科学. 4, 2018-03-23. 九州大学持続可能な社会のための決断科学センター
バージョン：
権利関係：



卷末言

安浦寛人

この原稿を書いている時点（2月12日）で、マスコミやインターネット上では平昌オリンピックに関係する記事や情報が溢れている。オリンピックという、「平和の祭典」を目指して始まった世界的なイベントが、商業主義に翻弄されるとともに、今回は朝鮮半島を取り巻く危機的な国際関係において政治的にも利用され、極めて複雑な環境下でのオリンピック／パラリンピックとなっている。一人ひとりのアスリートの感動のドラマの裏に、様々な利害関係や社会問題が蠢いているのが見えてくる。

この「決断科学」第4号には、村上先生のヒアリに関する論文とともに、昨年のヒアリ騒動における報道や情報公開に関する貴重な研究ノートも合わせて掲載されている。まさに、オリンピックに関連した報道や社会の意思決定に重なりあう問題である。科学的な事実とそれに基づく対応策を、いかに社会に受容してもらい社会全体の意思決定に結び付けるかは、決断科学にとって重要な課題である。この問題に正面から取り組もうとしているのが、徳永君と秋保君の対馬におけるシティズンシップ教育の事例に基づく論文である。これは、社会の構成員にいかに「市民性」を身につけてもらうかを模索した意欲的な取り組みである。「市民性」の涵養が、社会の合意形成における基本となる。また、田井君ほかの宗像での活動を踏まえた決断科学の理論基盤の洗練とその実践への適用に関する研究ノートは、個々の決断の評価とかかわる本プログラムの重要な課題を扱っている。細谷先生らのヤクシカZOOプロジェクトも一つの課題の提示であり実践

例である。

活動報告にあるように、決断科学に関連する様々な活動も広がってきた。大学院リーディングプログラムとしての国からの支援期間は終わりに近づいてきた。プログラムに参加する学生諸君や教員の皆様が、これまでの取り組みをさらに深掘りするとともに、持続可能な決断科学の教育・研究体制について新しいアイデアと実践に取り組まれることを期待している。

(九州大学理事・副学長)